愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	スポーツ情報論		
担当者(Instructors)	杉谷 正次	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

スポーツ情報学は、コンピュータの登場によって近年注目を集めるようになった新しい研究分野です。例えば、身体能力やチームワークで競うスポーツ競技では、いまや情報は必須であり、高い情報収集・分析能力を持つチームが、優位となることはいうまでもありません。 そこで、本講義では各スポーツ競技における情報活用の事例を取り上げ、スポーツと情報のかかわりについて理解を深めます。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	授業は、基本的に講義形式で行います。 但し、授業のテーマに応じてグループワークを取り入れることもあります。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	スポーツ情報論を学ぶにあたって	シラバスをもとに本講義の全体の内容について説明する。	□
第2回	スポーツと情報	スポーツと情報のかかわりについて概説する。	□
第3回	スポーツに特化した情報企業	スポーツに特化した情報企業として「アソボウズ」や「データスタジアム」など、これらの企業が展開している事業内容等を紹介する。	□
第4回	野球における情報活用（1）選手の評価方法とその活用について考える	野球選手を評価する情報にはどのようなものがあるか、またその情報を実際どのように活用しているかなどについて考える。	□
第5回	野球における情報活用（2）セイバーメトリクスとは何か	「ID野球」「セーバーメトリクス」とは何か、情報が勝敗を左右するスポーツビックデータについて理解を深める。	□
第6回	野球における情報活用（3）マネーボール理論を考える	MLBオークランド・アスレチックスの「マネー・ボール」理論について考える。	□
第7回	サッカーにおける情報活用（1）FIFAランキングの評価と問題点	ワールドカップで導入されているFIFAランキングの算出方法とは、またそのランキングは正しい評価といえるかなどについて検証する。	□
第8回	サッカーにおける情報活用（2）OPTAシステムの効果を検証する	サッカーで導入されているOPTAシステムの効果について検証する。	□
第9回	ラグビーにおける情報活用	ラグビーワールドカップで成功した日本チームのデータ戦略とは何か、その戦略から学ぶ。	□
第10回	バレーボールにおける情報活用	ITバレーとして注目された「Volley Pad」の有効性について検証する。	□
第11回	陸上における情報活用	世界記録はどこまで伸びるか、これまでの記録を参考にしながら陸上競技における記録の限界を探る。	□
第12回	テニスにおける情報活用	プロテニス競技ではなぜ番狂わせが少ないのか、ATPランキンキングや4大大会の結果をもとに検討する。	□
第13回	スケートにおける情報活用	フィギュアスケートの得点はどのようにして算出されるのか、またスピードスケートではインコース、アウトコーススタートのどちらが有利かなど、過去の競技記録から分析する。	□
第14回	ゴルフにおける情報活用	ゴルフにおける情報活用について理解を深める。	□
第15回	まとめ	スポーツ情報論の授業を総括する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習（予習）として、次回授業テーマについてインターネット等で調べ学習をする（2時間程度）。 また事後学習（復習）として、授業の終わりに提示した小レポートの課題を作成し、次回授業までに提出する（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)
提出された小レポート（課題）は、原則として採点・講評・解答例の提示などによりフィードバックし、全体で共有する機会を持ちます。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2021地域ビジネスDP3	スポーツ情報論を学ぶことによって、様々な問題点を解決するなど、主体的に他者と協働して地域社会におけるスポーツの発展に貢献できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			70%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回提出された小レポート（課題）を【授業内試験】の成績として評価（70点満点）し、授業参加・貢献度（授業への取り組みなど）を【その他】の成績として評価（30点満点）します。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	J.アルバート・J.ベネット著 加藤貴昭訳『メジャーリーグの数理科学』シュプリンガー・ジャパン	
2	安藤丸男・多田慎哉『最強ツールとしての統計データ活用術』洋泉社	
3	鳥越規央『スポーツを10倍楽しむ統計学』化学同人	
4		
5		